

## ブラジルの政策金利引き下げについて

### ◇ 利下げについて

ブラジル中央銀行は現地31日、金融政策委員会において政策金利を0.5%引き下げて12.0%とすることを決定しました。市場では約0.25%の利下げは織り込んでいたものの、エコノミストによる予想では、今回は政策金利の据え置きがコンセンサスとなっていたため、予想外の措置として受け止められています。会合後の声明では、主要国における成長率見通しの下方修正や世界的な金融市場の不安定な動き、先進国の政策運営における手詰まり感などから、当面、インフレ圧力が抑えられるとの見方を示しています。世界経済の減速による貿易や投資の減少、それに伴う景況感の悪化によってブラジル経済を急速かつ大幅に鈍化させるリスクがあるとしています。今回の措置は世界経済の変調に因る影響を最小限にかつ可及的速やかに抑えるためのもので、昨年4月に利上げ局面入りして以降、今年7月にかけて計8回、合わせて3.75%の利上げを実施してきたものの、これまでの利上げ継続からの調整を余儀なくされた形となっています。

### ◇ 今後の見通し

同国中央銀行は前回7月の政策決定会合において利上げを実施したものの、声明では、それまでの利上げ姿勢をトーンダウンさせる形となりました。その後の欧米経済の変調が同国経済への波及を懸念する向きが強まり、金利市場では前倒しでの利下げ実施を織り込み始めました。ただし、ブラジルでは鉱工業生産や個人消費など一部の経済指標に頭打ち感は見られるものの、失業率は過去最低水準で推移していることから雇用環境は逼迫しており、賃金の上昇圧力の強まりが懸念される状況となっています。ブラジルのインフレ率は、足元、前年比6.87%と中央銀行のインフレ目標値(+4.5%)を大きく上回るとともに、目標値上限の6.5%を超える水準にまで上昇しています。また、来週発表予定の8月のインフレ率も7%を上回る数字が予想されており、目標値との乖離が一層広がる可能性があります。ここ数年のブラジルにおける経済成長を下支えしてきた要因の1つにインフレ目標が厳格に遵守されてきたことが挙げられますが、足元のインフレ水準での利下げ実施が中央銀行の信認を損なうリスクが懸念される状況です。

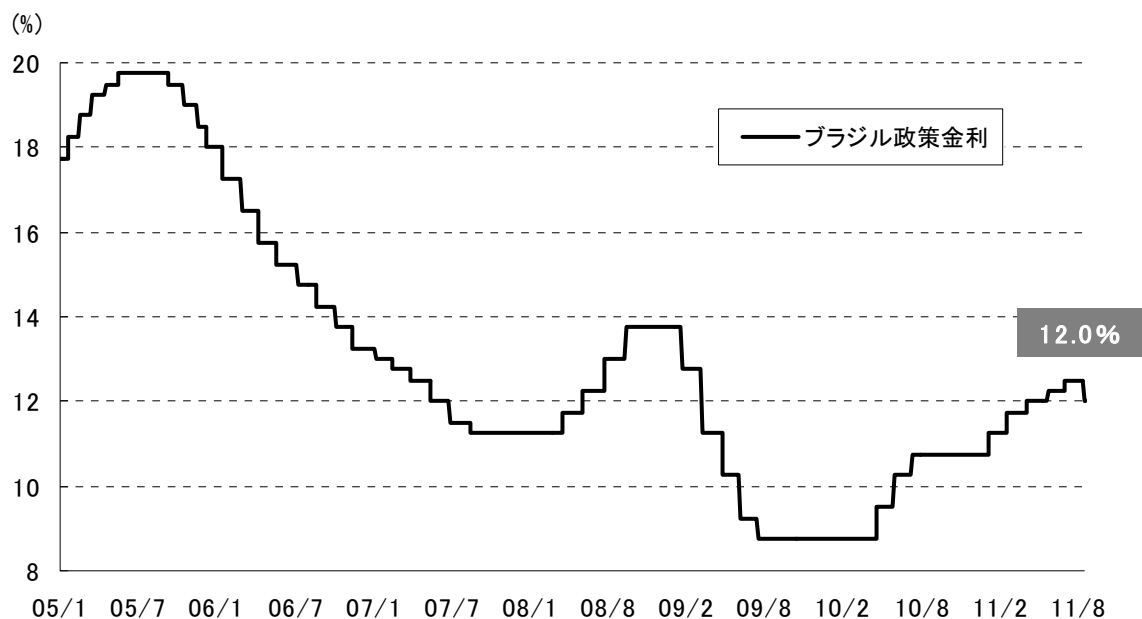
為替市場については、中長期的にはブラジル経済は良好な状態が続く見込みで、海外から資金は流入しやすいものと見ています。ただし、短期的には通貨レアルが対米ドルで約3年ぶりの高値水準で推移しており、同国ではすでに通貨高の加速を抑えるために資本規制が取られており、今回の予想外の利下げ実施がさらなる通貨の押し下げを狙ったものとして捉えられ、レアル安地合いで推移する可能性があります。

債券市場では、景気減速懸念が高まりつつある中、一方でインフレ懸念が強い状況下で利下げが実施されたことから、短期的に長短金利差が拡大しやすいものと見ています。なお、短期金利先物市場では、来年後半にかけて今回の利下げを含めて1.5%の利下げをすでに織り込んだ水準となっています。

以上

< ご参考 >

【 ブラジル政策金利の推移 】 (2005年1月3日～2011年9月1日、日次)



【 ブラジルレアルの対円・対米ドルレートの推移 】 (2005年1月3日～2011年9月1日、日次)



(出所: Bloomberg より DIAM 作成)

※P.3の投資信託に係るリスクと費用、ご注意事項を必ずご覧ください。

DIAMアセットマネジメント株式会社

商号等/DIAMアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第324号

- 2 - 加入協会/(社)投資信託協会、(社)日本証券投資顧問業協会

## 【投資信託に係るリスクと費用】

### 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、購入金額について元本保証及び利回り保証のいずれもありません。

### 投資信託に係る費用について

投資信託は、お申込手数料、信託報酬、信託財産留保額等の費用が発生する場合があります。特定ファンドの取得をご希望の場合には、当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)をご確認ください。

[ご投資頂くお客様には以下の費用をご負担いただきます。]

- 申込時に直接ご負担いただく費用…… 申込手数料上限3.675%(税込)
- 換金時に直接ご負担いただく費用…… 信託財産留保額上限0.5%
- 投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用…… 信託報酬上限1.995%(税込)
- その他費用…… 上記以外に保有期間等に応じてご負担頂く費用があります。

投資信託説明書(交付目論見書)等でご確認下さい。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、DIAMアセットマネジメント(株)が運用するすべての投資信託のうち、徴収する夫々の費用における最高の料率を記載しております。

## 【ご注意事項】

- ・ 当資料は、DIAMアセットマネジメント(株)が独自に作成した資料であり、金融商品取引法により義務づけられた資料ではありません。
- ・ 当資料はあくまでも情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。
- ・ 投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、購入金額について元本保証及び利回り保証のいずれもありません。
- ・ 当資料は、DIAMアセットマネジメント(株)が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データはあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- ・ 当資料における内容はあくまでも作成時点(2011年9月1日)のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

投資信託は、

1. 預金・金融債・保険契約ではありません。また、預金保険機構及び保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
2. 金融機関の預金・金融債あるいは保険契約における保険金額とは異なり、購入金額について元本保証及び利回り保証のいずれもありません。
3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。